

○計画期間:令和元年12月～令和7年3月(5年4月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和2年度終了時点（令和3年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成20年7月に国から「松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、その後、平成25年3月に「2期松江市中心市街地活性化基本計画」、令和元年12月に「3期松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受けた。

3期計画においては、“既存ストックの活用などによる活気の創出”、“水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり”、“歴史・文化資源を生かした観光振興・交流の拡大”の3つの基本方針のもと、官民が連携して事業を展開し、中心市街地活性化に取り組んでいる。

令和2年度は中心市街地の賑わい創出の一環として、中心市街地活性化協議会のソフト事業で、2つの民間による事業が行われた。2件ともにまちあるきマップの作成であり、事業の実施により今後の中心市街地の回遊性の向上と商業の活性化が期待されるものである。

令和2年度はエリア・リノベーションを推進するための「水の都松江のまちのRe-project」に取り組み、リノベーションスクール等を通じて、松江のまちがもつ既存ストックを活かした新たなまちづくりが中心市街地に広がっていくことが期待される。

また、令和元年度に白潟地区都市再生整備計画が策定され、「水の都」のまちづくりを推進するため、水辺沿いの魅力的な水辺空間の創出に向けて、水辺利活用社会実験「ヒトツソラノシタ・プロジェクト」を実施し利活用の環境整備を行った。今後も、松江駅前から松江城までの賑わいの動線をつなげることで、歩きたくなる水辺空間や市街地を形成し、中心市街地の魅力向上を図っていく。

一方で、中心市街地の人口は依然として減少しており、商店街における営業店舗数も減少傾向にあるため、まちの活気が失われないよう各種事業を着実に実施していくことが重要である。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により松江市においても大きく影響を受けたところであり、感染状況を注視しながら、中心市街地の活性化に向けて官民が一体となって取り組み、今後事業効果を最大限に高めることで活気の創出、中心市街地の活性化を目指す。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

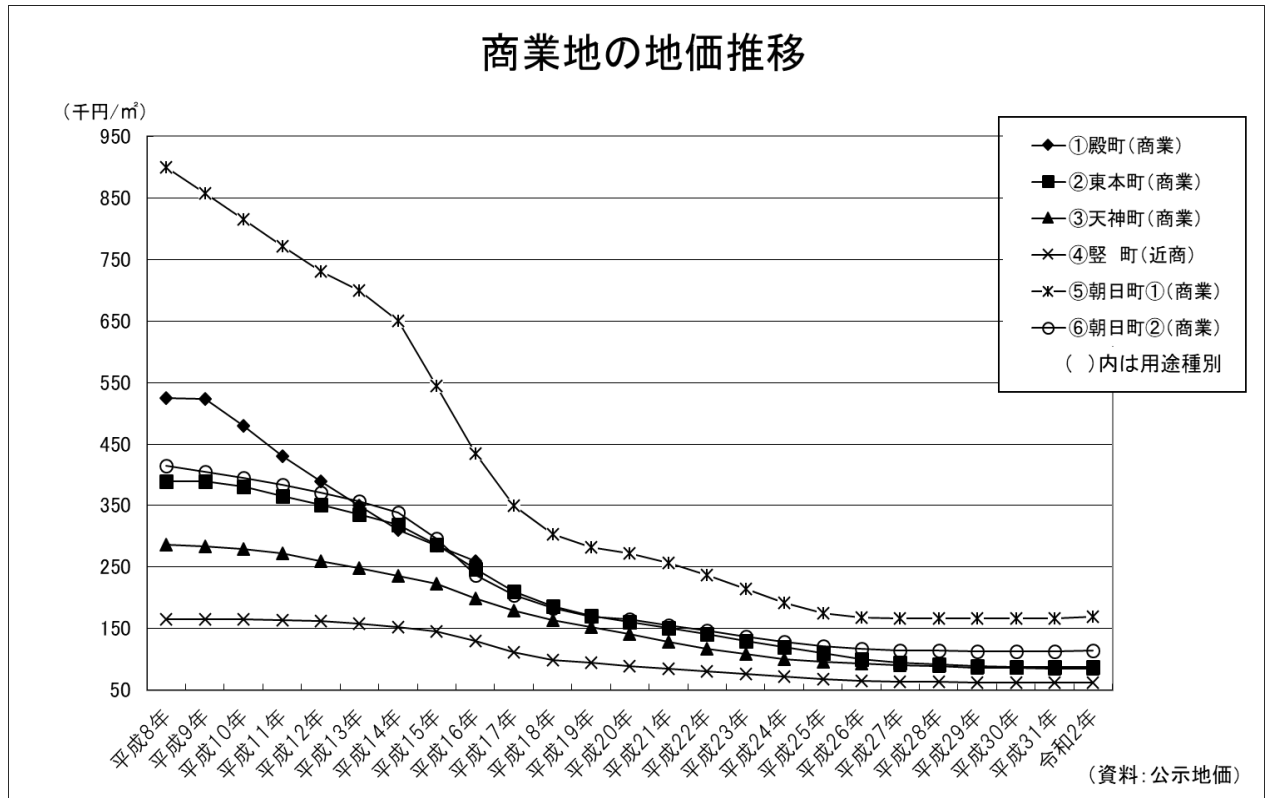
（基準日：毎年度1月1日）

(1) 居住人口

（中心市街地 区域）	平成30年 度（計画前 年度）	令和元年度 （1年目）	令和2年度 （2年目）	令和3年度 （3年目）	令和4年度 （4年目）	令和5年度 （5年目）	令和6年度 （6年目）
人口	7,548人	7,411人	7,127人				

人口増減数	-100人	-137人	-284人				
自然増減数	-83人	-89人	-199人				
社会増減数	-17人	-49人	-85人				
転入者数	291人	297人	222人				

(2) 地価



2. 令和2年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大対策への取り組みにより大きな影響を受けた。このような中で、3期松江市中心市街地活性化基本計画に掲げる指標を達成することを目的に、松江市と協議会で定期的に連絡会議（事務担当者会議）を開催するとともに、若手中心の運営委員会を設置し、松江市が作成する「中心市街地エリアビジョン」の検討を行うなど、官民が密接な連携を取って取り組むことが出来た。

また、『まちづくりコーディネーター・サポーター』を協議会内に設置し、市と連携し商店会や町内会と空店舗・空き家活用の促進や、諸会合出席等による情報収集を行い、補助金活用など必要に応じたアドバイスを実施しまちづくりを推進した。

今後も官民一体となり各種事業を着実に実行し、事業効果を最大限に発揮し中心市街地の魅力向上を目指していく。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
既存ストックの活用などによる活気の創出	遊休不動産の事業化件数	30件 (H26~30年度累計)	53件 (R元年12月~7年3月累計)	12件 (R元年12月~3年3月累計)	C	③	①
	(※補完指標) 歩行者・自転車通行量 (平日・休日2日間)	20,060人 (H30年度)	23,066人 (R6年度)	20,136人 (R2年度)	B	①	①
水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり	水辺の公共空間の活用日数	548日 (H26~30年度累計)	948日 (R元年12月~7年3月累計)	369日 (R元年12月~3年3月累計)	C	③	①
	(※補完指標) 水辺の公共空間の来訪者数	431千人 (H30年度)	497千人 (R6年度)	6千人 (R2年度)	C	①	1
歴史・文化資源を活かした観光振興・交流の拡大	中心市街地内の外国人宿泊客数	43千人 (H30年)	65千人 (R6年)	4千人 (R2年)	C	②	2
	中心市街地内の宿泊客数	1,269千人 (H30年)	1,374千人 (R6年)	676千人 (R2年)	C	①	2

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「遊休不動産の事業化件数」については、令和2年度にチャレンジショップ事業の対象エリア拡大等を実施したことにより10件の活用があった。「水の都松江のまちのRe-project」事業のさらなる進展とチャレンジショップ支援事業の推進により、目標達成は可能であると考えている。

「歩行者・自転車通行量（平日・休日2日間）」については、前年から5,566人減の20,136人であり、新型コロナウイルス感染症の影響における外出自粛の影響が要因として考えられる。今後は、主要事業の効果発現によりまちなかの回遊性が向上し、通行量が増加することで目標達成は可能であると考えている。

「水辺の公共空間の活用日数」については、令和2年度は前年度から50日増加し、322日であった。新型コロナウイルス感染症の影響の中、イベント等の開催は減少したものの、水辺利活用社会実験「ヒトツソラノシタ・プロジェクト」の実施により活用日数の増加が考えられる。主要事業の効果がまだ十分に発現されていないものの、「大橋川周辺まちづくり事業」等の進展により水辺空間の利活用が増加することで目標達成は可能であると考えている。

「水辺の公共空間の来訪者数」については、令和元年は914千人であったが、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、いわゆる「密」になるような大規模イベントが実施できず、水辺空間を活用することが不可能であったため、イベント等による来訪者数は約6,000人（サンセットカフェ及び水の都音楽祭等）となった。

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、前年から37千人減の4,300人となった。外国人宿泊客数については、一貫して増加傾向にあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響拡大による入国制限等、世界的に移動が制限されたことが直接の要因である。

「中心市街地内の宿泊客数」については、前年から644千人減の676千人となった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で3月以降に大幅に落ち込み、GoToトラベルや県や市独自のキャンペーン等の支援策により一時的には持ち直したものの、過去に例を見ない厳しい状況になった。

今後、新型コロナウイルス感染症の影響の収束期を見据えた、ハード面など受入れ環境整備を引き続き進めていき、将来的な目標達成に向けて取り組んでいく。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「遊休不動産の事業化件数」

目標達成見通しについては、令和元年度フォローアップにおいてチャレンジショップ事業の進捗状況が想定より低い数値だったため努力が必要(③)と評価したが、令和2年度は対象エリアの拡充等を行い順調に進捗しているため、目標達成が見込まれる(①)と評価した。

「水辺の公共空間の活用日数」

目標達成見通しについては、令和元年度フォローアップにおいて主要事業の効果が発現しておらず努力が必要(③)と評価したが、令和2年度は水辺利活用社会実験「ヒトツソラノシタ・プロジェクト」により活用の環境整備を行い、新型コロナウイルス感染症の影響において予想を上回る活用があったため、目標達成が見込まれる(①)と評価した。

「(※補完指標) 水辺の公共空間の来訪者数」

目標達成見通しについては、令和元年度フォローアップにおいては10年ぶりのホーランエンヤの開催により多くの集客を呼び目標達成が見込まれる(①)と考えていたが、新型コロナウイ

ルス感染症の影響により大規模イベントが開催できず来訪者が減少し令和2年度は前年度比 909 千人減となったが、水辺の活用日数は順調に進捗しているため、新型コロナウイルス感染症の影響が終息し松江水郷祭等の大規模イベントの開催が可能になれば目標達成は見込める(1)と評価した。

「中心市街地内の外国人宿泊客数」

目標達成見通しについては、令和元年度フォローアップにおいては直近では一貫して増加傾向にあったものの日韓関係の悪化による影響等で減少したことにより目標達成が見込まれない(2)と評価した。

その後、新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限等によりさらに減少したため、目標達成が見込まれない(2)と評価した。

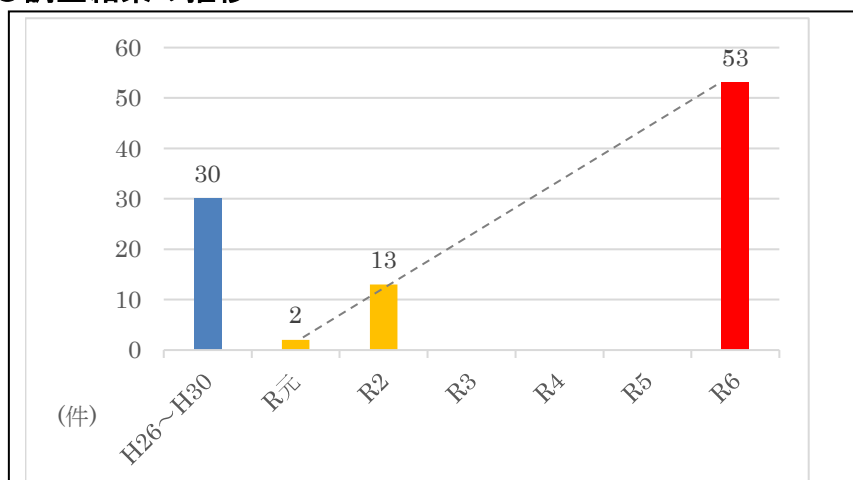
「中心市街地内の宿泊客数」

目標達成見通しについては、令和元年度フォローアップにおいてはゴールデンウィークが10日間あったこと、10年ぶりのホーランエンヤ開催等により予想を上回る誘客を呼び目標達成が見込まれる(1)と考えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言による外出自粛や旅行マインドの低下により大きく減少したため、目標達成が見込まれない(2)と評価した。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「遊休不動産の事業化件数」※目標設定の考え方基本計画 P53～P71 参照

●調査結果の推移



年	(件)
H30	30 (基準年値) (H26~30 累計)
R元	2 (年間 2)
R2	13 (年間 11)
R3	
R4	
R5	
R6	53 (目標値) (R元. 12~7.3 累計)

※調査方法：主要事業における事業化件数

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地の遊休不動産

〈分析内容〉

遊休不動産の事業化件数に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

後述するチャレンジショップ支援事業の対象エリア拡大し、面的な活性化を図ったことにより事業化件数が10件となり、期待された効果が発現している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 水の都松江のまちの Re-project (松江市)

事業実施期間	令和元年度～3年度【実施中】
事業概要	若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリア・リノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできる「若者が主役となる持続可能なまち」を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】15件（累計） 【最新値】0件（累計） リノベーションまちづくりをテーマとする講演会を2回、「リノベーションスクール@松江」を開催し事業化を目指したが、遊休不動産の事業化に至った件数はなかった。 令和2年度より取り組んでいる「リノベーションスクール@松江」による遊休不動産所有者への事業提案等を引き続き行うことにより実績は現れるものと考えられる。
事業の今後について	令和2年度に引き続き、令和3年度もリノベーションスクール@松江を開催する。また、遊休不動産所有者への活用意向の調査を引き続き実施する予定。 リノベーションスクールで提案された事業プランのブラッシュアップを進め、遊休不動産の実事業化に繋げていくことを目指す。

②. 古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	令和元年6月にオープン。民間事業者の手で古民家をリノベーションして多創造複合施設を整備し、シェアオフィスやチャレンジカフェ、チャレンジショップなど起業したい方がチャレンジできる場を設け、次の出店、空き店舗解消につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】6件（累計） 【最新値】0件（累計） 新型コロナウイルス感染症の影響によりチャレンジカフェ、ゲストハウスともに利用低調であった。最新値は0件であるが、中心市街地以外にシェアオフィス利用者から2件、チャレンジカフェ利用者から2件の起業及び空き家を活用した出店へと繋げることが出来た。
事業の今後について	SNSを活用し「SUETUGU」の周知徹底を図ることで利用者を増やし、

いて	地域の人や観光客、起業家などが交流することを通じてまちなかの活性化を目指す。また、令和2年度は区域外への出店が4件あったことから、今後区域内への出店が期待される。
----	---

③. チャレンジショップ支援事業（松江市）

事業実施期間	平成9年度～【実施中】
事業概要	中心市街地等の空き店舗等で、新たに出店しようとする事業者に対して家賃等の補助を行うことで、開業時の負担を軽減し、新規出店を促すことで商業の振興と地域経済の活性化を図っていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】6件 【最新値】10件 チャレンジショップ支援事業の対象エリア拡大し、面的な活性化を図ったことにより令和2年度は事業化件数が10件となり、目標値を上回った。期待された効果が発現している。
事業の今後について	補助対象と補助金額を拡充することでさらなる既存ストックの活用による活気の創出を目指していく。

④. 伊勢宮界限元気プロジェクト（松江新大橋商店街振興組合、株式会社伊勢宮界限元気プロジェクト）

事業実施期間	平成23年度～【実施中】
事業概要	商店街やまちづくり会社による空き店舗への出店誘致や地域資源を活かしたソフト事業等の実施により、魅力的なまちづくりを推進し、誘客の促進と地域コミュニティの再生を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】1件 「ソフト事業」については、新型コロナウイルスの影響によりイベントの中止が相次いだ。「出店誘致」については、空き店舗問い合わせ窓口により松江新大橋商店街振興組合の空き店舗対策を担い、1店舗がオープンした。
事業の今後について	平成24年度にテナントミックス事業として整備した6件のうち2件が空き店舗となっているため、商店街やまちづくり会社による空き店舗への出店誘致とチャレンジショップ支援事業との連携を図り、事業化を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

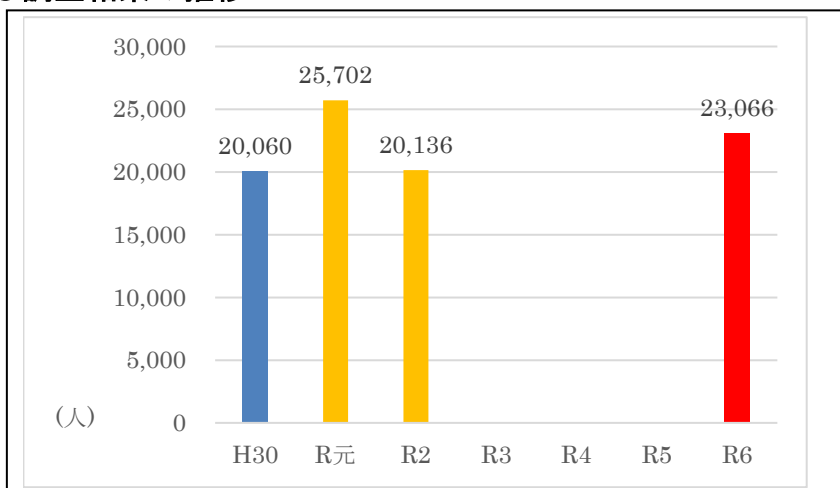
「遊休不動産の事業化件数」については、主要事業は概ね順調に進捗している。「チャレンジショップ支援事業」については、令和2年度から中心市街地商店街としている要件を基本計画で設定された区域内に拡大し、面的な活性化を図っている。併せて、補助対象経費、補助上限額の拡充を行い、空き店舗等の遊休不動産の活用を推進する。

また、「水の都松江のまちの Re-project」については、「まちのトレジャーハンティング@松江※」において提案されたエリアのビジョンを踏まえ、具体の遊休不動産を題材にして、不動産の所有者に対し事業化の提案を行う「リノベーションスクール」を令和3年度も継続して開催し、遊休不動産の実事業化を連鎖的に進めることで、まちなかの再生と市域全体の活性化を目指す。

※参加者がエリアに分かれて実際にまちを歩き、まちに眠っている資産や魅力を発見し、その生かし方・使い方を考えエリアのビジョンとして提案するフィールドワーク

「歩行者・自転車通行量（平日・休日2日間）」※目標設定の考え方基本計画 P53～P71 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H30	20,060 (基準年値)
R元	25,702
R2	20,136
R3	
R4	
R5	
R6	23,066 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者数を毎年10～11月の平日・休日に、市内9地点において11時～18時で計測

※調査月：10～11月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内の9地点（みしまや中央店、末次本町広場、中村茶舗前、島根県不動産会館前、ポートピアビル前、駅前輪場横高架下、元丸三西側高架下、松江しんじ湖温泉南側、小泉八雲記念館前）における歩行者及び自転車の通行量

〈分析内容〉

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

「チャレンジショップ支援事業」は対象エリアを拡大し、事業化件数10件と好調に推移したことから通行量の増加に寄与したものと考えている。しかしながら「まちあるき観光推進事業」は、

新型コロナウイルス感染症の影響で一部開催を中止。SNS を活用した情報発信を行った。後述する「中海・宍道湖・大山圏域観光局事業」は、一部中止した事業もあるが、アフターコロナを視野に入れ、圏域での連携した取り組みを進め、国内外に向けて観光プロモーションを行った。

通行量は昨年度より減少したが、新型コロナウイルス感染症の影響により当初想定していた事業が実施出来なかったため、期待された効果が発現出来なかった。また、新型コロナウイルス感染症の影響による不要不急の外出自粛及び移動の制限、旅行マインドの低下が原因であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 水の都松江のまちの Re-project (松江市)

事業実施期間	令和元年度～3年度【実施中】
事業概要	若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリア・リノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできる「若者が主役となる持続可能なまち」を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,200人 【最新値】0人 リノベーションまちづくりをテーマとする講演会を2回、「リノベーションスクール@松江」を開催し、また遊休不動産への活用意向の調査を実施した。遊休不動産の事業化に至った件数はなかったため、通行量の増加にはつながらなかったが、令和2年度より取り組んでいる「リノベーションスクール@松江」による遊休不動産所有者への事業提案等を引き続き行い、遊休不動産を活用した魅力的なコンテンツを創出することで通行量の増加に寄与するものと考えられる。
事業の今後について	令和2年度に引き続き、令和3年度もリノベーションスクールを開催する。また、遊休不動産所有者への活用意向の調査を引き続き実施する予定。 令和3年度以降も継続して開催するリノベーションスクール等を通じて遊休不動産を活用した魅力的なコンテンツを創出することで通行量の増加を目指す。

②. 古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	民間事業者の手で古民家をリノベーションして多創造複合施設を整備し、シェアオフィスやチャレンジカフェ、チャレンジショップ

	など起業したい方がチャレンジできる場を設け、次の出店、空き店舗解消につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】80人 【最新値】0人 令和元年6月にオープンし、シェアオフィスやチャレンジカフェ、ゲストハウスを運営している。 シェアオフィスやチャレンジショップ等のSUETUGU利用者による区域内での空き店舗活用等の事業化に至った件数はなかったものの、区域外で4件が事業化に至ったことにより、周辺地区の賑わいや回遊性向上には貢献した。
事業の今後について	SNSを活用し「SUETUGU」の周知徹底を図ることで利用者を増やし、地域の人や観光客、起業家などが交流することを通じてまちなかの活性化を目指し、通行量の増加を図る。また、令和2年度は区域外への出店が4件あったことから、今後区域内への出店が期待されることから、通行量の増加が期待出来る。

③. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】100人 【最新値】0人 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で外出・旅行マインドが低下していることもあり、通行量も減少している。
事業の今後について	常に最新情報を発信できるデジタルサイネージや大型観光マップを活用して、今後の周辺エリアの通行量増加、まちあるき観光の推進に繋げていく。

④. チャレンジショップ支援事業（松江市）

事業実施期間	平成9年度～【実施中】
事業概要	中心市街地等の空き店舗等で、新たに出店しようとする事業者に対して家賃等の補助を行うことで、開業時の負担を軽減し、新規出店を促すことで商業の振興と地域経済の活性化を図っていく。

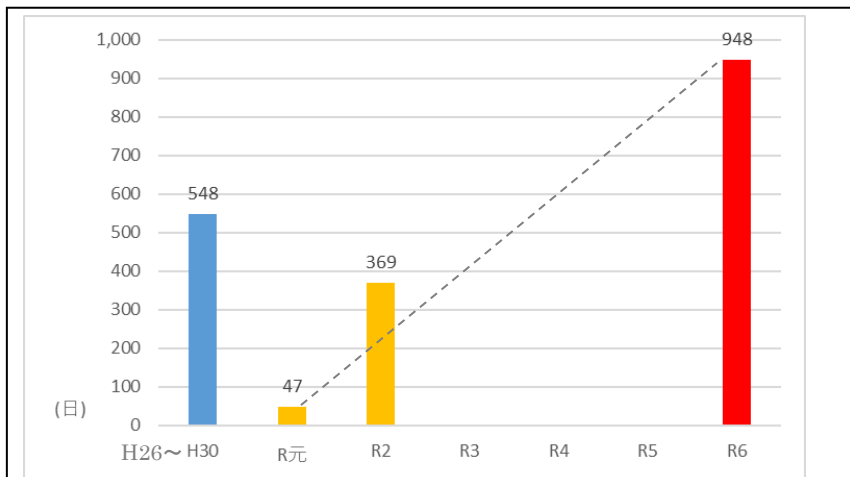
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない チャレンジショップ支援事業の対象エリア拡大し、面的な活性化を図ったことにより令和2年度は事業化件数が10件となり、通行量の増加に寄与したものとする。
事業の今後について	補助対象と補助金額を拡充することでさらなる既存ストックの活用による活気の創出を目指していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「歩行者・自転車通行量（平日・休日2日間）」については、主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能であるとする。新型コロナウイルス感染症の影響の中で、主要事業の効果が発現するのが令和3年度以降になると見込んでおり、また事業効果をさらに高めていくために官民連携して各事業に取り組むことで目標を達成していきたい。

「水辺の公共空間の活用日数」※目標設定の考え方基本計画 P53～P71 参照

●調査結果の推移



年	(日)
H30	548 (基準年値) (H26～30 累計)
R元	47 (年間 47)
R2	369 (年間 322)
R3	
R4	
R5	
R6	948 (目標値) (R元. 12～7.3 累計)

※調査方法：市、県、国に対する利用申請又は届出等

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：松江市、島根県、出雲河川事務所が管理する水辺の公共空間に対して利用に関する申請又は届出等があった日数の累計

〈分析内容〉

水辺の公共空間の活用日数の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

新型コロナウイルス感染症の影響により松江市民レガッタ（令和2年度より開催場所を区域外としている）を含め大規模イベントが中止となる中、水辺利活用社会実験「ヒトツソラノシタ・プロジェクト」の実施は水辺の公共空間の活用日数の増加に大きく寄与した。また、「水の音楽祭」は新型コロナウイルス感染症の影響があったものの規模を縮小し、分散開催を行うことで昨

年度より 8 日間増加し 10 日間の開催としたことで期待された効果が発現された。令和 2 年度の活用日数は 322 日となるなど活用日数の増加に効果があったと考える。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大橋川周辺まちづくり事業（松江市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	大橋川周辺まちづくり基本計画にもとづき、官民で構成するミズベリング松江協議会により、大橋川周辺の公共空間を利活用する取組に対し、必要な経費を補助することで、魅力的な水辺空間と市街地の回遊性の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 20 日 【最新値】 153 日 令和 2 年度においては、宍道湖や大橋川沿岸の公園や港湾緑地で、水辺利活用社会実験「ヒトツソラノシタ・プロジェクト」や、10 月に「ミズベリングぷち縁日」を開催するとともに、事業者が出店しやすいよう電源整備を行うことで、水辺の公共空間の活用日数の増加に貢献した。
事業の今後について	水辺の公共空間における社会実験を予定しており、さらなる利活用に向けて取り組んでいく。

②. 白潟地区都市再生整備計画事業（松江市）

事業実施期間	令和 2 年度～11 年度【実施中】
事業概要	大橋川改修事業を契機として、拡幅箇所となる白潟地区において、水辺空間と既存ストックの活用により、中心市街地の回遊性向上と、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和 2 年度～6 年度） 〔認定基本計画：都市再生整備計画事業（白潟地区（第 1 期））（国土交通省）（令和 2 年度～6 年度）〕
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 4 日 【最新値】 0 日 令和 2 年度は、水辺沿いを走る市道の電線類地中化（予備設計）、住宅等修景支援、まちづくりシンポジウムの開催、公共空間における社会実験のための環境整備に取り組んだ。これらの効果が発現するのは令和 3 年度以降である。
事業の今後について	令和 3 年度は、電線類の地中化（詳細設計）、歩行空間の美装化及び景観照明整備（設計）、住宅等修景支援、社会実験を行うこととしている。これらにより、水辺の公共空間の活用につなげていく。

③. 水の都音楽祭（水の都音楽祭市民実行委員会）

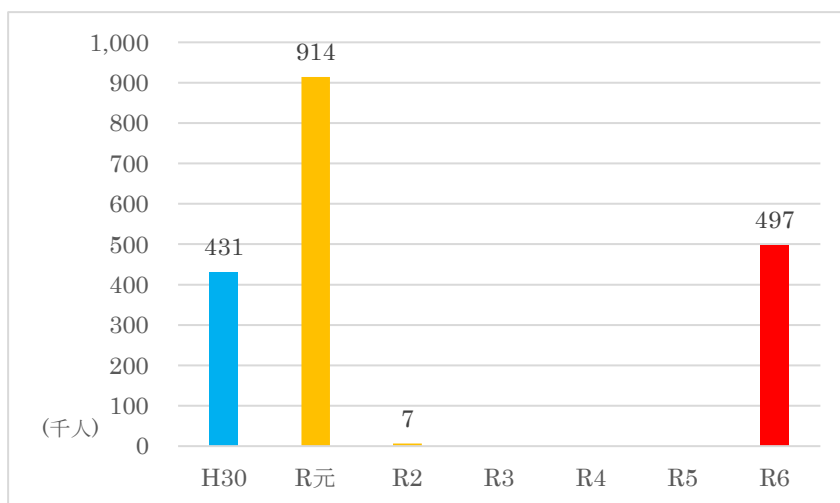
事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	松江市が水の都であるということをも音楽という幅広く届くツールを使い、市内外に水の都であることを幅広く発信する。また市民のシティプライドを高めるため、多様な市民参加からなる事業を目的とし、地域の活性化を目指すため水の都音楽祭を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】10日 新型コロナウイルスの影響により規模の縮小をせざるを得なかったが、開催を分散開催とすることで前年度より活用日数が8日間増加し10日間の開催となった。これにより水辺の公共空間の活用日数に寄与した。
事業の今後について	水の都であることを幅広く発信するため、水辺空間の利活用としてサンセットカフェ等と音楽が融合した取り組みを実施していくことで、目標達成に取り組んでいく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「水辺の公共空間の活用日数」については、主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能であると考え。新型コロナウイルスの影響により活用日数を減らすのではなく、分散開催等により活用日数の増加につなげていく。また事業効果をさらに高めていくために、官民で構成するミズベリング松江協議会を中心に、民間事業者と連携した社会実験など、官民連携により取り組むことで目標を達成していきたい。

「水辺の公共空間の来訪者数」※目標設定の考え方基本計画 P53～P71 参照

●調査結果の推移



年	(千人)
H30	431 (基準年値)
R元	914
R2	7
R3	
R4	
R5	
R6	497 (目標値)

※調査方法：松江市観光動態調査等

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：水辺の公共空間で開催されたイベントの観客数等

〈分析内容〉

水辺の公共空間の来訪者数の増加に向けた各事業については、一部事業の実施内容を変更して実施した。

後述する「水の都音楽祭」が新型コロナウイルス感染防止の観点から規模を縮小し分散開催となるなど、当初目標値を設定した際と同様な形式で実施することができなかった。また、松江市民レガッタは区域外での開催（令和2年度は中止）となったことや松江水郷祭をはじめとする各種イベントが中止となったことが来訪者数減少の原因であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大橋川周辺まちづくり事業（松江市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	大橋川周辺まちづくり基本計画にもとづき、官民で構成するミズベリング松江協議会により、大橋川周辺の公共空間を利活用する取組に対し、必要な経費を補助することで、魅力的な水辺空間と市街地の回遊性の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】5,000人 【最新値】1,515人 令和2年度においては、宍道湖や大橋川沿岸の公園や港湾緑地で、水辺利活用社会実験「ヒトツソラノシタ・プロジェクト」や、10月に「ミズベリングぷち縁日」を開催するとともに、事業者が出店しやすいよう電源整備を行った。最新値では1,515人となっており目標値を下回っている。新型コロナウイルス感染症の影響により規模縮小開催したことや中止になったイベントが原因であると考えられる。
事業の今後について	水辺の公共空間における社会実験を予定しており、さらなる利活用に向けて取り組んでいくことで水辺の来訪者数を増加させていく。

②. 白潟地区都市再生整備計画事業（松江市）

事業実施期間	令和2年度～11年度【実施中】
事業概要	大橋川改修事業を契機として、拡幅箇所となる白潟地区において、水辺空間と既存ストックの活用により、中心市街地の回遊性向上と、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～6年度） 〔認定基本計画：都市再生整備計画（白潟地区（第1期））（国土交通省）（令和2年度～6年度）〕
事業目標値・最新値	【目標値】1,000人

値及び進捗状況	【最新値】0人 電線類の地中化（予備設計）、住宅等修景支援、まちづくり委員会への専門家派遣、公共空間における社会実験に取り組んだ。これらの効果が発現するのは令和3年度以降である。
事業の今後について	電線類の地中化（詳細設計）、歩行空間の美装化及び景観照明整備（設計）、住宅等修景支援、社会実験を行うことで、周辺の水辺空間の来訪者数の増加につなげる。

③. 水の都音楽祭（松江市）

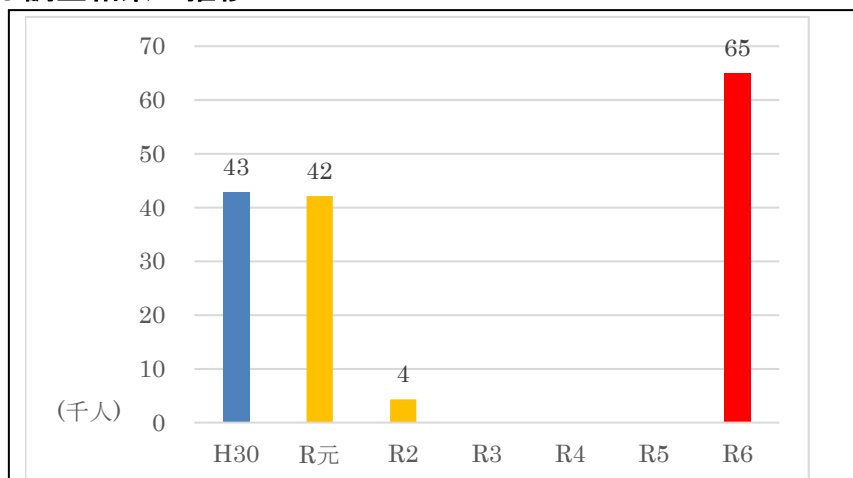
事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	松江市が水の都であるということを音楽という幅広く届くツールを使い、市内外に水の都であることを幅広く発信する。また市民のシティプライドを高めるため、多様な市民参加からなる事業を目的とし、地域の活性化を目指すため水の都音楽祭を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】60,000人 【最新値】630人 令和元年は11月3・4日の2日間で開催し、延べ40,000人が参加したが、令和2年は新型コロナウイルス感染症防止のため10月3日～11月15日の土日計10日間に分散して、延べ24組のアーティストがライブを開催し、合計630人が参加した。分散開催したものの新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、目標値には届かなかった。
事業の今後について	水の都であることを幅広く発信するため、水辺空間の利活用としてサンセットカフェ等と音楽が融合した取り組みを実施していくことで、目標達成に取り組んでいく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「水辺の公共空間の来訪者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、松江水郷祭（令和元年参加者数480千人）をはじめとする各種イベントが中止になったことが影響している。一方、水辺の公共空間の活用日数は増加傾向のため、新型コロナウイルス感染症の影響が完全に収束したあには、目標達成は可能であると考えられる。

「中心市街地内の外国人宿泊客数」※目標設定の考え方基本計画 P53～P71 参照

●調査結果の推移



年	(千人)
H30	43 (基準年値)
R元	42
R2	4
R3	
R4	
R5	
R6	65 (目標値)

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年1～12月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間外国人宿泊客数

〈分析内容〉

中心市街地内の外国人宿泊客数の増加に向けた各事業については、新型コロナウイルス感染症の水際対策として海外からの渡航制限が行われるなど、誘客活動を予定どおり実施することが困難であり、外国人宿泊客数が大幅に減少した。

その他事業である「松江水燈路」や「松江水郷祭」「国宝松江城マラソン」が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、「外国人滞在型観光促進事業補助金」も実績はなく、外国人宿泊客数の増加にはつながらなかった。「外国人観光客モニター事業」は、年間で988人に対し助成を行ったが、前年の21.3%と大幅に減少した。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト（松江市）

事業実施期間	平成30年度～令和2年度【済】
事業概要	地域資源（歴史・文化など）のブラッシュアップを図り、夜のイベント開催などによって魅力を向上させ、域内の経済を活性化するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】8,000人 【最新値】0人 通年で松江城等の常設化ライトアップ整備を行い夜の魅力を創出した。またおせわさんプロジェクト等への事業補助を行い体験コンテンツの創出をした。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感

	染症の影響で海外からの入国制限がかかっていたため、PR活動など誘客活動すること自体が困難だった。宿泊客数も大幅に減少し、目標値を下回る結果となった。
事業の今後について	観光協会をはじめとした民間事業者の支援を通じ、民間活力を活用した松江の魅力向上及び観光誘客の促進、外国人宿泊客数の増加を図る。

②. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2,000人 【最新値】0人 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で海外からの入国制限がかかっていたため、PR活動など誘客活動すること自体が困難だった。宿泊客数も大幅に減少し、目標値を下回る結果となった。
事業の今後について	情報発信機能の地盤を強化していくことで、コロナ収束後に外国からの旅行客受入ができる状況になれば、外国人宿泊客数増加に効果が発現してくることが期待される。

③. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（松江市）

事業実施期間	平成28年度～令和2年度【済】
事業概要	松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを活かした一体的な観光振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成28年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】6,000人 【最新値】0人 外国人誘客対策事業として、欧米豪、台湾、香港、上海等への海外プロモーションを行った。また、WEBによる観光コース紹介や、SNSによる情報発信を行った。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で宿泊客数は大幅に減少し、目標値を下回る結果となった。
事業の今後について	引き続き各自治体の事業と連携及び協力するとともに、経済界との

いて	さらなる連携強化によってスケールメリットを活かした観光誘客を推進していく。
----	---------------------------------------

④. 民間事業者による宿泊施設の整備（民間事業者）

事業実施期間	令和2年度～【未着手】
事業概要	民間宿泊施設の開業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2,000人 【最新値】0人 現在中心市街地内において民間事業者による宿泊施設の大規模整備が2件進んでいるが、令和2年度末時点で建設工事中である。
事業の今後について	令和3年度以降に完成予定。

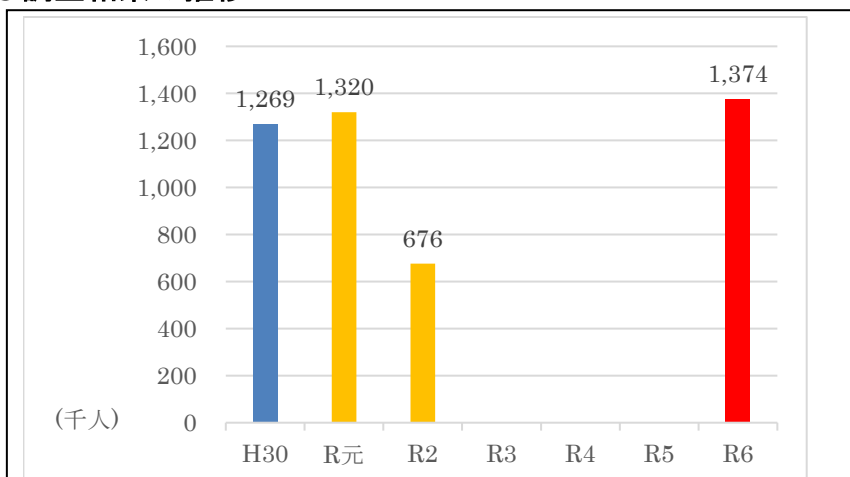
●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の目標からは程遠い結果となった。

今後も、コロナの収束時期が不透明ではあるが、渡航制限等が解除されるまでの期間で、圏域での連携した取り組みを進め、国内外に情報発信するとともに、ハード面においても多くのインバウンドを受け入れられる体制を構築していく。

「中心市街地内の宿泊客数」※目標設定の考え方基本計画 P53～P71 参照

●調査結果の推移



年	(千人)
H30	1,269 (基準年値)
R元	1,320
R2	676
R3	
R4	
R5	
R6	1,374 (目標値)

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年1～12月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間宿泊客数

〈分析内容〉

中心市街地内の宿泊客数の増加に向けた各事業については、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により当初の予定どおりに実施することが困難だった。

緊急事態宣言の発令等による不要不急の外出自粛や旅行マインドの低下により、旅行者が減少したことが原因であると考えられる。

その他事業である「松江水燈路」や「松江水郷祭」「国宝松江城マラソン」が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、「外国人滞在型観光促進事業補助金」も実績はなく、外国人宿泊客数の増加にはつながらなかった。「外国人観光客モニター事業」は、年間で 988 人に対し助成を行ったが、前年の 21.3%と大幅に減少した。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト（松江市）

事業実施期間	平成 30 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	地域資源（歴史・文化など）のブラッシュアップを図り、夜のイベント開催などによって魅力を向上させ、域内の経済を活性化するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成 30 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】8,000 人 【最新値】0 人 直接事業としては JR 松江駅前の国際観光案内所の外観工事を行った。補助事業としては、松江城での体験ツアー「リアルニンジャ」の企画・開発、松江城天守での夜神楽公演を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で宿泊客数は大幅に減少し、目標値を下回る結果となった。
事業の今後について	観光協会をはじめとした民間事業者の支援を通じ、民間活力を活用した松江の魅力度向上及び観光誘客の促進、外国人宿泊客数の増加を図っていく。

②. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2,000 人 【最新値】0 人 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの

	総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で全国的に旅行マインドが低下しており、PR活動など誘客活動すること自体が困難だった。宿泊客数も大幅に減少し、目標値を下回る結果となった。
事業の今後について	コロナ収束期を見据えて、受入環境整備や情報発信機能をさらに強化していくことで、宿泊客数回復に向けて地盤作りをすすめていく。

③. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（松江市）

事業実施期間	平成28年度～令和2年度【済】
事業概要	松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを活かした一体的な観光振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成28年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】26,000人 【最新値】18,000人 外国人誘客対策事業に加え、国内誘客対策事業として各空港の冬季利用促進を図るほか、メディア等へパブリシティとして情報提供を行うほか、三大都市圏への観光プロモーション等を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で宿泊客数は大幅に減少し、目標値には届かなかった。
事業の今後について	引き続き各自治体の事業と連携及び協力するとともに、経済界とのさらなる連携強化によってスケールメリットを活かした観光誘客を推進していく。

④. 民間事業者による宿泊施設の整備（松江市）

事業実施期間	令和2年度～
事業概要	民間宿泊施設の開業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】87,000人 【最新値】0人 現在中心市街地内において民間事業者による宿泊施設の大規模整備が2件進んでいるが、令和2年度末時点で建設工事中である。
事業の今後について	令和3年度以降に完成予定。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地内の宿泊客数」については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、当初の目標からは程遠い結果となった。

海外からの渡航者が制限されているだけでなく、国内でも全国的に旅行マインドが低下しており、国内線航空便や新幹線・特急などの鉄道各社も運休・減便している現状の中で、全国的にPR活動など誘客活動すること自体が困難だった。

今後は、Go To トラベルの再開が未確定な中、新型コロナ対策として緊急的に実施した県や市の独自のキャンペーン等の支援策により、県内や近隣県からの観光客誘致にも注力していくとともに、新型コロナウイルス感染症の収束期を見据えた、松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業、民間事業者による宿泊施設の整備によるハード面など受入れ環境整備を引き続き進めていき、将来的な目標達成に向けて取り組んでいく。